

## 施設解体新たな波紋 角田・長女殺害動機の1つに

知的障害者施設に入所する長女を殺害したとして殺人罪に問われた母親の裁判で、検察側が動機の1つに「みやぎ知的障害者施設解体宣言」を挙げたことが波紋を広げている。宣言した浅野史郎前知事は「わたしの信念は間違っていない」と強調するが、関係者からは「宣言が招いた悲劇では」との批判も聞かれる。障害者の家族の悩みをどう和らげるのか、地域や行政の一体的な取り組みが求められる。

波紋を広げたのは、仙台地裁で6日あった初公判で、検察側が「被告は宣言を誤解し、長女が家に戻ると生活が大変になると思い込み、殺害に及んだ」と指摘した点。

長女が入所していた「はぐくみ園」(角田市)の秋葉仁園長は「入所事業を廃止と言ったことはない」と母親の誤解に戸惑う。「(母親は)積極的に悩みを打ち明ける人ではなかった」と悔やむ。

「宣言自体が悲劇を生んだのではない」。浅野前知事は自身が会長を務める県社会福祉協議会の責務にも言及。「家族が地域で孤立し、確かな情報が届かなかったのではないか。社協や地域が家族をフォローする体制の整備が急務だ」と語る。

一方、宣言を批判してきた「船形コロニー育成会」の高見恒憲会長は「障害者の親は夜も眠れないほど子どもが心配になることがある。宣言が不安を増幅させたのは確かだ」と強調する。

障害者自立支援法施行で障害者の地域移行が促進されるが、はぐくみ園の秋葉園長は「グループホームなど地域の受け皿が未整備のままでは、障害者とその親は再び家庭に引きこもってしまう。同じような悲劇が繰り返されないか心配だ」。

母親の弁護人は「宣言はあくまで動機の1つ。宣言だけにとらわれて殺害したのではないと思う」と話している。

[みやぎ知的障害者施設解体宣言] 2004年2月に浅野史郎前知事が発表。県内すべての施設入所者を地域に戻し、誰もが地域で暮らせる社会の実現を掲げた。だが、昨年就任した村井嘉浩知事は「刺激的で、施設を壊す印象を与える」として、「解体」の言葉を使わないと表明した。

[角田・長女殺害事件] 5月5日午後11時半ごろ、角田市枝野、無職佐藤隆子被告(55)が、角田市の知的障害者施設「はぐくみ園」から一時帰宅中の長女(33)の首をひもで絞めて殺害した。

2006年07月08日 土曜日

---